

Project A08	地域協働専攻 国際協働グループ 哲学カフェ@はこだて
メンバー	[学 生] 菅原麻愛/仁平千博/外山この葉/稲垣宥乃/駒走天音/草野百愛/庄司奈央 [担当教員] 菅沼聡
【背景】 函館には哲学カフェを開催しているところがないため、定期的に私たちが開催する。 【目的】 地域の交流の場を設ける。 【概要】 「哲学カフェ」とは、一般の人たちが集い、あるテーマについて年齢・性別・国籍・肩書など関係なしに自由に対話・議論する開かれた場のこと。今年度は4回行った。	
【プロセスと成果】 <第1回> 開催地:シエスタハコダテ 4階Gスクエア 日時:7月7日(金) 17:00~20:00 方法:5人程度で机を囲んでの対話。二部構成。テーマはメニュー表から選ぶ。 広報活動:NCV出演、FMIいるか「WILL」出演、小学校へのチラシ配布、Instagram、当日の声掛け。 参加者層:主に高校生。大学生や高齢者、会社員の方の参加もあった。 <div data-bbox="1054 1149 1417 1503" data-label="Image"> </div> 第1回 シエスタでの哲学カフェの様子 <第2回> 北水祭 開催地:北海道大学水産学部函館キャンパス、第3講義室 日時:10月9日(月) 12:00~15:00 方法:5人程度で机を囲んでの対話。テーマはメニュー表から選ぶ 広報活動:Instagram、当日の声掛け 参加者層:北大生、主婦、子ども、会社員 <第3回> 函教祭 開催地:北海道教育大学函館校、第12講義室 日時:10月14日(土) 12:00~15:00、10月15日(日) 14:00~16:00 方法:5人程度で机を囲んでの対話。テーマはメニュー表から選ぶ。 広報活動:Instagram、当日の声掛け 参加者層:教育大生、主婦、子ども、高齢者 <第4回> 蔦屋書店×教育大函館校> 開催地:蔦屋書店 日時:12月9日(土) 12:00~15:00 方法:5人程度で机を囲んでの対話。テーマは固定(嘘をつくのは悪い? 自由とは?など)。三部構成 広報活動:NCVへの出演。FMIいるか「WILL」への出演。Instagram。 函館周辺施設へのチラシの配布。蔦屋書店での館内放送。蔦屋書店のチラシ。当日の声掛け。 参加者層:蔦屋書店の買い物客。広告を見て訪れた人 <div data-bbox="1054 1581 1417 1912" data-label="Image"> </div> 第1回 宣伝・お菓子配りの様子	

【総括と反省・今後の課題】

前期は、第1回の哲学カフェでは、InstagramやFMいるか、NCVなどの様々な媒体で宣伝できたり、メンバーそれぞれの強みを生かしたりすることができた。

後期は、それぞれの回の反省を次回に活かすことができた。具体的には、テーマに先入観があったという意見や運営の進行が悪かった、話し合った内容の振り返りが行われなかった、などという改善点が出たため、時間配分を工夫したり、話し合い後にそれぞれのグループで出た意見をまとめて発表したりした。

前期の活動と比較して、後期の哲学カフェではテーマを予め決めることで時間短縮したり、それぞれの回でまとめを発表したりすることができた。一方で、テーマにあった先入観を完全に排除したとは言えなかったり、テーマが色々な解釈ができるものであり、話し合いの論点がずれたりしてしまった。

第4回の蔦屋書店で行った哲学カフェは、場所が開放的で参加者を呼び込みやすい空間であり、哲学カフェ開催のアナウンスが流れていたことが様々な参加者を呼び込むのに効果的であった。

活動を通して、目的である「地域の交流の場を設ける」ことができているように感じた。場所を変えたり、不必要なものを取り除いたりすることによってプロジェクトをさらに効果的なものにすることができた。

今後の課題として、論点がずれた際の軌道修正をもう少しスムーズに行うべきだと考える。

全4回の哲学カフェを通して、テーマに先入観があったことや、哲学カフェに対して元々あった私たちの偏見に気づくことが出来た。年代関係なくというステータスのもと哲学カフェを行っていたが、ある程度限界があることや、必ずしもお菓子は必要ないことがわかった。私達も、参加者の方も楽しんで哲学カフェに参加することができたと思う。先輩方のスタイルを取り入れつつ、私たちのスタイルを確立することが出来て良かった。

【地域からの評価】

私たちは7月7日と12月9日の哲学カフェの変化を知るため、アンケートをもとに参加者数、年齢幅、参加した経緯、満足度を以下の表にまとめた。

	7月7日	12月9日
回答数	14人	19人
年齢幅	13歳～59歳	8歳～81歳
経緯	一位 飛び入り (36%) 二位 SNS (28%) 三位 ポスター・チラシ(14%)	一位 飛び入り (47%) 二位 ポスター・チラシ (21%) 三位 SNS (15%)
満足度	78%	84%

表から参加者数、年齢幅ともに増加した。また、満足度は78%から84%と、元から高かったがさらに高い満足度を得られた。経緯の項目では飛び入りの割合が一貫して多かった。12月9日のほうが飛び入り参加の割合が大きい理由は、蔦屋書店という開放的な空間で、気になった人が入りやすい場所であったからと予想した。7月7日の哲学カフェはSNSでの宣伝効果が大きかったが、12月9日の開催においてはポスター・チラシの方が効果的であったといえる。

【年間日程】

■前期

- 4月21日 「テーマ決め」
- 6月9日 「企画班・広報班に分かれて活動」
- 6月16日 「NCVでCM撮影」
- 6月30日 「千代台小学校・柏野小学校訪問」
- 7月2日 「FMいるか“will”にラジオ出演」
- 7月5日 「中島小学校訪問」
- 7月7日 「“哲学カフェ@はこだて”Gスクエアで開催」

■後期

- 10月5日 「北水祭に向けて準備」
 - 10月9日 「“哲学カフェ@はこだて”北水祭へ出張」
 - 10月12日 「函教祭に向けて準備」
 - 10月14,15日 「“哲学カフェ@はこだて”函教祭に参加」
 - 11月16日 「NCVでCM撮影」
 - 11月26日 「FMいるか“will”にラジオ出演」
 - 12月9日 「“哲学カフェ@はこだて”蔦屋書店で開催」
 - 1月11日～「成果発表会に向けて準備」
- ※随時リハーサル